

理窓教育会報

第 45 号

平成 27 年 4 月 1 日

東京理科大学理窓教育会

事務局 大学会館 PORTA 神楽坂 7 階

巻頭言

『 理窓教育会と教員養成 』

理窓会副会長 坂本 功(41 理数)

私は全国の同窓教員、そして理窓教育会の代表として、理窓会の副会長を務めていると思っています。

私は東京都立高等学校を退職後、東京理科大学の教職課程指導室に勤務しました。当時の仕事は教員免許取得のための、教育実習に関する指導でした。しかし学生は、教員免許を取得しただけでは、実際の教員への道は容易ではありません。

理窓教育会東京支部の会則の中に「東京理科大学の教員希望学生の資質の向上をはかることを通し、教育の発展に寄与するとともに、会員相互の親睦を深めることを目的とする」とあります。

そこで、東京理科大学の生涯学習センターの公開講座の中に、理窓教育会の先生方を講師とした「教員採用試験対策講座」を設けました。3 年生対象の秋の基礎講座、3 月の合宿指導、4 年生対象の春の直前講座などです。また、一次試験合格者に対する「面接指導」を就職課に設定してもらい、理窓教育会の先生方に指導をお願いしました。そして、その成果は着実にあがりました。

採用試験に合格し、4 月から全国の教壇に立つ学生を招待し、激励する理窓教育会の催す「激励会」に、大学関係者を招待し、その成果を示し理窓教育会の底力をアピールしました。

それと共に、文部科学省の「大学におけるキャリア教育の推進」の提言や、大学の機構

改革もあり、大学が教員採用試験の対策に、直接係るようになりました。

今まで、生涯学習センターの公開講座や、就職課の面接指導などで行っていた、教員採用試験の対策は「教職支援センター」に移管されました。しかし講師は従来どおり、理窓教育会の先生方です。「一人でも多くの同窓教員を全国の教壇に立たせたい」という思いが指導に表れ、学生達も先輩教員の熱い指導に応えています。

同窓である教職課程指導室の先生方の、教育現場で培った経験と教育力が、教員養成の場で評価され、大学の講座やさまざまな事業にも係ってきています。具体的には「数学科指導法」「理科指導法」等の教職科目を担当、「小学校教員養成プログラム」「教員免許状更新講習」「教員スキルアップ講座」「理科実験の公開講座」等です。

そして、理窓会で立ち上げた「坊ちゃん科学賞研究論文コンテスト」も、今年度から大学の主催となりますが、理窓教育会が中心となり進めていきます。

教職課程指導室が教育実習しか担当していなかった時代を考えると、隔世の感があります。

これからも、理窓教育会の目的の一つである「教員希望学生の資質の向上をはかり、同窓教員を養成する」という理念のもとに「同窓の教員は同窓が養成するという」素晴らしい、この流れを続けていきたいと思ひます。

会長挨拶

「アクティブラーニングと理数教育」

理窓教育会会長 富岡 康夫(48 理化)

今回、中根滋理事長が中教審の委員となり、次回の学習指導要領の改訂に向けて動き始めていると伺っています。

理数教育についても今日の課題の一つは、やはり国際化です。科学技術創造立国としての我が国の立場は、今後もきわめて大切なことと思います。理数教育にかかわる教員の使命はさらに重くなり、正にグローバルに通用する人材の育成が急務であります。

ここでは答えのない課題に対応する能力を育むことであり、従来の知識理解のみの指導からの脱却が必要といわれます。そこで、「アクティブラーニング」による指導が叫ばれています。もともと理数科目はその要素が科目の性質上高いと思われまます。私自身も現在の学習指導要領の改訂の折、中教審理科専門部会委員、高等学校理科部会主査代理として、高等学校の理科の科目について再編成を担当し、科目「理科課題研究」を設置した経験があります。生徒自ら課題を設定し、解決の方法を探る能力の育成はこれからの教育の重要な要素であります。SSH の評価者として全国数学選手権大会(数学甲子園)で優勝した高等学校数学の授業を参観した折、生徒の発想を大事にして型にはめないことを大切にしていた印象があります。教え過ぎないというと手抜きに聞こえる場合もありますが資質を充分見極めて、意欲を持たせ褒めて、指導する必要を痛感しました。

この「アクティブラーニング」はもとより大学教育の中で文部科学省が理数学生育成支援授業として公募をしたことがきっかけです。今や大学では当然ともいわれるようになってきました。「突破力」を身に付けさせる講座、「出る杭を伸ばす」プロジェクトなど各大学が実践しています。

今や茨城県の女子高生の振動反応の研究が

Journal of Physical Chemistry A 誌に掲載される時代であります。理窓教育会の会員の皆様からの「アクティブラーニング」の実践報告をお待ち申し上げ、ご挨拶と致します。

(私立文華女子中学・高等学校長)

支 部 報 告

北海道支部総会報告

支部長(52 理工物) 石谷 克彦

平成 26 年度の総会・懇親会は平成 26 年 10 月 25 日(土)午後 6 時から札幌駅近くの会場で開催いたしました。今回の参加者は 8 名(前年比 2 減)でした。

総会では現支部長の定年退職に伴い、平成 27 年度からの新支部長として佐々木高至校長(北海道札幌旭丘高等学校)を選出しました。

総会後には懇親会に移行し、それぞれに近況を伝えあうなど賑やかな会になりました。参加者は札幌近郊から 4 名、他は室蘭、苫小牧、美唄など遠方からも参加者がありました。参加者の年齢や勤務先も様々でしたが、初めて会に参加した方も含めて共通する教育課題や昔共に勤務した学校の話で盛り上がり、同時に、それぞれの未経験の分野については新しい刺激を受けることもあり楽しい会にすることができ、あっという間の二時間でした。

毎年参加者を増やすことが会の中で話題となりますが、これといった妙案がなかなか思い浮かばずに終わってしまいます。次年度は理窓会北海道支部との連携なども視野に入れて考えたいと思っています。この件も含めて新支部長さんに引継をしたいと思います。

岩手支部総会その他報告

理窓会岩手支部長(54 理数) 千葉 仁

平成 26 年度の岩手支部総会は、平成 26 年 11 月 8 日(土) 10:30~「ホテルエース盛岡」で、理窓会岩手支部総会と併せた形で、16 名の会員の参加で開催されました。

始めに情報交換会として、県立宮古高等学

校の佐藤校長先生から「豊かな情操と生きる力を育むために」というテーマで発表していただきました。前任の県立軽米高等学校に於ける地域連携活動と情操教育の実践報告で、音楽を通じた地域の人々との交流紹介が印象的でした。

続いて元北里大学教授の野村先生から、3月に上梓された「北里柴三郎と後藤新平 世界的細菌学者と近代行政の先覚者との絆」のご紹介がありました。教鞭をとられた大学に関連する二偉人の意外な繋がりについてお話しいただきました。

支部総会では、平成 26 年度からの新役員が承認され、本部からは現在の大学、理窓会及び維持会の活動状況についてご紹介いただきました。

総会終了後、席を変えて懇親会を開催しました。大学から来ていただいた塚本会長が、秋の叙勲で旭日中綬章を受章されて初めての支部総会という喜ばしいニュースで会が始まり、新しく参加された方の自己紹介や各会員の近況報告を交え、終始和やかな雰囲気の懇親会となりました。

秋田支部総会報告

支部長(52 修化) 佐藤 秀子

平成 26 年度の支部総会は、昨年 10 月 18 日(土)、秋田市の「ホテルパールシティ秋田竿燈大通り」で開催されました。

この度は、大学から常務理事の池北雅彦先生、理窓会からは副会長の渡邊一郎先生がお見えになりました。また、こうよう会からは小助川秋田支部長はじめ 6 名の方が出席して下さいました。こうよう会支部とは、今後絆を更に深めていきたいと思っております。

今回は念願の 30 名参加を達成することが出来ました。初めての出席者が、一昨年 5 名、昨年 2 名、そして今年度は 4 名と順調に推移しています。これも三浦前支部長(現参与)のご努力の賜と改めて感謝申し上げます。

さて、総会では予定した案件(会務報告・会計収支決算)がすべて承認されました。

総会終了後、池北先生と渡邊先生から大学と理窓会の現状、後輩の活躍等のご講話を伺い、同窓生として大変誇りに思いました。

続いて講演では、講師の小林悟氏(秋田県潟上市議会議員、昭和電気工業 KK 社長、S51 理工・電工)が、郷土の先覚者石川理紀之助翁の偉業を紹介し、“翁の時代から根付いている「地域づくり」「人づくり」を「秋田の風」として全国に発信したい”と熱く語りました。

その後の懇親会は、大学時代の思い出や情報交換などに花が咲き、楽しいひと時でした。総会の模様は、支部報と支部ホームページで、出席できなかった会員に報告されています。

27 年度の総会も今年度同様、10 月の第 3 土曜日の 17 日に開催されますので、多数の出席を祈りつつ支部総会の報告とします。

山形支部総会報告

理窓会支部長(51 理工機) 布川 元

山形県には理窓教育会がありませんので、理窓会支部総会の報告をもって報告とさせていただきます。

山形支部は、県内を村山、置賜、庄内、最北の 4 地区にわけ、総会は村山→置賜→村山→庄内→村山→最北→村山というように、村山地区は 2 年に一度、他地区は 6 年に一度当番となるよう輪番制で総会を開催しています。

今年は村山地区が当番となり、山形国際ホテルにおいて平成 25 年度の事業報告、決算報告、26 年度の予算案や役員改選案について協議されました。26 年度の大きな変化は、理窓会山形支部のホームページを立ち上げたことです。これからの活用が楽しみです。また、役員改選において、平成 27 年度より支部長は玉橋博幸氏(S52.3 卒理一化)へ交代すること、来年度の総会は今年と同時期に庄内地区で開催することなどが決定いたしました。

その後、こうよう会との共催で、藤嶋学長による講演会(演題『教育も研究も楽しく、活発に — 光触媒研究を例にして』)が開催

され、充実した総会・講演会となりました。

また、前日夜には学長を囲んでの懇親会も行われ、地元でもなかなか手に入らない大吟醸『十四代』や、幻の焼酎『百年の孤独』を飲みながら、会員の近況報告や大学時代の思い出話で盛り上がった次第です。

今後とも、会員相互の絆をより一層深められるよう活動してまいりますので、ご協力宜しくお願い致します。

群馬支部総会報告

支部長 (55 理数) 中澤 治

理窓教育会群馬支部総会は 11 月 22 日(土)に行われた理窓会群馬支部総会と同時に開催されました。総会では元県立前橋工業高校長であり建築学がご専門の村田敬一先生にご講演をいただきました。本県は平成 26 年 6 月 21 日に「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界文化遺産に登録されたばかりで、その建築物の歴史的価値や建築学的価値を詳細にわかりやすく説明いただきました。絹産業は当時、日本の輸出産業の筆頭であり当時の日本の発展に大きな役割を果たしたことを再確認したところです。

また、大学側の出席者より母校の現況について詳しく説明を頂きました。新設なった葛飾キャンパスの報告は、学生達が非常に環境の整ったキャンパスで大学生活を送ることができうらやましい気持ちと共に今後の東京理科大学の発展に大きく関わるものと思っています。

この総会の教育関係出席者は多くが高校教育に関わる者であり、現職の教諭、教頭、校長や、すでにご勇退され多方面でご活躍されている諸先輩もおられます。特に現職の教職員は昨今の教育現場の変化を話題とし、それぞれの立場で日々のやりがいと苦心を語り合いました。理科大同窓生の方々は理科大の校風がそうであるように堅実で誠実、緻密で丁寧な仕事をし、各職場で中核となって活躍しています。今後もそのネットワークをさらに広げ深めてまいりたいと思います。

茨城支部総会報告

支部長 (46 理物) 小林 康則

【役員会】平成 26 年 4 月 26 日(土)支部長、庶務(1 名)出席のもとココス竜ヶ崎店において行われました。

前年度行事および収支決算報告が承認され、その後支部総会の会場、時期、講演者、案内方法(郵送、メール)、役割分担および議案等が検討されました。

【支部総会】平成 26 年 6 月 29 日(日)13:30 より諏訪東京理科大学西山勝廣教授に講演にお越しいただき、茨城県民文化センターで開催されました。

出席者は 5 名で、ここ 6, 7 年間では最も少ない数でした。近年の参加者数減少への対策として、電話での勧誘のほかに案内はがきに一筆書き添えたりして工夫しましたが効果がありませんでした。

西山教授の講演は、レオナルド・ダ・ヴィンチの生い立ちから始まり、同時代の著名な画家との比較、科学的領域にまで及ぶ豊かな発想を西山教授の博学な視点から分かり易く解説していただきました。またダ・ヴィンチの摩擦についての問題意識は、現代の省エネ対策の根本的な要素である摩擦の削減にもつながっており、その発想は何百年も時を超えて引き継がれているとも述べられました。講演の終盤に「Powers Of Ten」という有名な動画を見、西山教授が開発に携わった製品の一部を手にとって見せてもらい、大変充実した楽しいひと時でした。

なお、支部規約により支部長が任期満了で退任しましたが次期支部長選出に至りませんでした。

埼玉支部総会報告

支部長 (53 理工工化) 本多 昇

平成 26 年度理窓教育会埼玉支部総会は、東京理科大学経営学部久喜キャンパスで 7 月 6 日(日)10:00~総会 11:00~昼食会 12:00 から~久喜キャンパス見学という日程で実施しました。午後から理窓会埼玉支部総会に合

流という初めての実施形態を試みました。また、26年度から中学校籍の教職員にも加入いただき活性化を図ってまいりました。支部総会には理窓教育会本部から会長の富岡康夫様、理窓会埼玉支部から会長の長澤智則様を迎え参加者 31 名で実施しました。午後は、理窓会埼玉支部総会に合流し、中根理事長の理科大の近況、藤嶋学長の講演に引き続き懇親会と充実した 1 日となりました。

また、例年 12 月第 1 週の土曜日に実施していた理窓教育会埼玉支部総会及び講演会を今年度は 12 月 6 日(土)に上尾駅前の東武ホテルにて講演会と懇親会という形に変えて行いました。講演会講師に都立日比谷高校の武内彰校長先生をお迎えし、理窓教育会本部から会長の富岡康夫様、理窓会埼玉支部から会長の長澤智則様に参加いただき、参加者 26 名で開催しました。武内校長先生の教育に対する見識と行動力がその熱意とともに伝わってくる素晴らしい講演でした。

講演に続き懇親会では富岡会長から理科大と理窓教育会の近況をお話いただき有意義な時間を過ごすことができました。このように平成 26 年度は、大きな改革の年として今後の理窓教育会埼玉支部の活性化に向け一歩踏み出すことができました。しかし、より参加しやすい総会、講演会の実施形態、会員数の拡大と新たな課題も明確となりました。

東京支部総会報告

支部長 (48理化) 富岡 康夫

平成 26 年度の東京理科大学理窓教育会東京支部定期総会は 5 月 25 日(日)午前 11 時 30 分より、東京理科大学神楽坂校舎 3 号館 333 教室で開催した。先立つ午前 10 時半より同教室で理窓教育会の理事会を開催し、平成 26 年度も日程等の都合で書面総会を実施すること、そして平成 25 年度決算、26 年度予算、26 年度役員人事等の議案の検討を行った。特に役員人事については、27 年度に向けて千葉、埼玉、神奈川の近県の教育会支部に理事就任の依頼をして、組織を充実することが提案さ

れ了解された。

支部総会は竹村精治高校部会長の司会で始まった。挨拶を理窓教育会長東京支部長の富岡が行った。今年度も教員採用者が 200 名を超え、実績の継続と、今後の理窓教育会の発展のために会への積極的参加と会員拡大のお願いを述べた。次に報告および議事で、平成 25 年度各部・各委員会の活動報告、会計報告(案)、さらに平成 26 年度役員(案)について支部長からの提案説明があり了承された。平成 26 年度の活動方針(案)と 26 年度予算(案)の説明があった。松原担当理事より、平成 26 年 10 月 26 日(日)に葛飾キャンパスで実施の「第 9 回ホームカミングデー」への参加の呼びかけと、大学主催に変更された「第 6 回坊っちゃん科学賞」への生徒発表のお誘い、理窓教育会が全面的に支援することについてのお願いがあった。1 号館前の広場に坊っちゃんの塔が建立されたことも報告された。

本総会終了後、会場を 1 号館 17 階記念講堂に移動し理窓会東京支部と合流し、総会を実施した。報告では大学より中根滋理事長より世界にはばたく大学の現状の説明、入学式での英語でのスピーチの様子を拝見した。4 月より就任した石神一郎理窓会会長より理窓会会員に大学からの無料メールアドレスの登録推進のお話があった。その後は藤嶋昭学長による「教養と教育が大切～身の回りには面白いことが多い～」と題した講演があり、光触媒から様々な面白い現象を、ユーモアを交えて説明された。

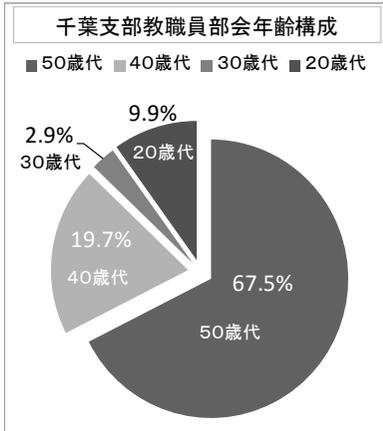
懇親会は近県支部の役員の皆様やこうよう会の皆様も加わり、話の尽きない会であった。話の中で東京スカイツリーの鋼管は理科大の先輩が作ったことを紹介し、大いに話題になった。楽しく交流が進んだ会であった。

千葉支部教職員部会からの報告

教職員部会長 (54 理工教) 森本 均

平成 26 年度、千葉支部では小倉支部長の下、6 月 8 日に役員会、7 月 26 日に研修会、8 月 24 日に総会・講演会、年が明けて 1 月 25

日に新春懇談会・講演会等の事業を行いました。教職員部会からも特に研修会、総会・講演会には多くの会員が参加し、見識を広めると共に、企業人部会との交流を深めながら、校歌の一節にある「奎運の根とならん」に違わぬ活動に努めてきたところです。



主に県内の公立高等学校の教員で構成されている教職員部会ですが、事務局が把握している今年度の会員数は322名にのぼり、その内9名が校長職、15名が教頭職、そして、13名が県教育委員会をはじめとした行政職に就いています。

また、年齢が確認されている公立高等学校に勤務する会員274名の平均年齢は49.5歳ときわめて高く、内50歳代が67.5%（185名）を占めており、会員の高齢化がますます顕著になってきています。（グラフ参照）

このことから分かるように今後10年間で理数教育をリードしてきた多くの会員が続々と退職していく中、若手会員にどのような形で将来を託せば良いのか、その方法論も含め大きな課題となりつつあります。

これからの千葉県教育を担う意欲ある若者達に経験豊富な会員が伝えるべきことは何か、残すべき遺産はないのか、手遅れにならない内にやれるべきことをやらなければならない状況にきているのではないかと感じています。

教職員部会としても、何らかの取組を始めねばと模索している状況ですが、他の支部において成果を上げている事例等がありましたら、御教示いただけますと幸いです。

また、このような状況は本支部に限らず多くの支部において直面しているのではないかと推察されます。理窓会本部には、各支部の

状況を御確認の上、このような課題を抱えている支部に対し側面から積極的に御支援いただきたく、心よりお願い申し上げます。

神奈川支部活動報告

支部長（51 理化）細川 秀夫

理窓教育会神奈川支部は、理窓会神奈川支部、神楽会（県立高等学校管理職及び教育行政職の会）と連携を深めながら活動を進めています。

平成26年度理窓会神奈川支部定期総会は、平成26年8月2日（土）、横浜中華街の傍にあるローズホテル横浜で来賓を含めて80名の参会者を得て開催しました。総会では、新しい理窓会神奈川支部長の選出が承認され、その後に特別講演会が開催されました。

中根理事長による講演「日本の理科大から世界の理科大へ」は、躍進する現状に甘んずることなくさらに進化を遂げようとする母校の力強い姿が浮かび上がるものでした。また、懇親会では石神理窓会会長、藤嶋学長を始めとする多くの来賓からご挨拶がありました。和やかな雰囲気の中、美味しい中華料理と紹興酒を堪能しながら懇親を深めました。

平成27年理窓会神奈川支部新年賀詞交歓会は、1月24日（土）に総会と同じ会場で開催されました。川崎地区の中学校教員等、およそ20名の初参加があり、これまでにない総勢91名という盛会となりました。講演では、理科大落研の六花亭空道さんの若さ溢れる落語、その後に同窓である桂歌助師匠の新作落語「理学の志士」に聴き入りました。笑いととも理科大の歴史、建学の精神を改めて学ぶ機会となりました。

また、平成26年度第1回神楽会は平成26年7月21日（月）海の日に開催し、神奈川県立総合教育センターの教育指導員による小・中・高の連結に係る講話、第2回は12月14日（日）に開催し、同窓である現職の茅ヶ崎養護学校長からのインクルーシブ教育の概念の講話を拝聴するなど、20名を超える同窓が研鑽に努めました。

このように本教育会支部は様々な機会を活用し、教育会会員の交流と資質向上に努めています。

山梨支部総会報告

(53 理物) 橘田 多喜夫

山梨支部総会は、毎年理窓会山梨支部総会と合同で開催しています。本年度は平成 26 年 10 月 11 日(土)16 時から甲府市「ニュー芙蓉」で、10 名の参加で開催しました。

来賓として、東京理科大学理事岡村総一郎先生、理窓会会長石神一郎先生、東京理科大学理事・維持会会長森野義男先生、諏訪東京理科大学経営情報学部教授 広瀬啓雄先生、こうよう会山梨県支部長餌取正人様をお招きしました。

本年度も支部総会に先だって、講演会を実施しました。今回は広瀬啓雄先生に「知識社会における人材育成支援システムについて」のご講演をしていただきました。グローバル化が進行する中で、学生の海外企業での研修の話もあり、我々支部会員にとっても興味ある内容でした。

総会では、大学、理窓会、諏訪東京理科大学からそれぞれご挨拶をいただき、新たに誕生した葛飾キャンパスの様子や、神楽坂キャンパス・野田キャンパスのこれからの展望についてお聞きしました。日本の理科大から世界の理科大へ大きく発展を続ける母校の現状を知り、非常に頼もしく思った次第です。

こうよう会山梨県支部長からは、山梨県におけるこうよう会の活動をお聞きしました。また、総会への出席会員増加の方策として、こうよう会組織を活用して、在学生・卒業生に同窓会組織の存在を知らせるために、理窓会・理窓教育会とこうよう会が、今後もしつそう連携を深めることが確認されました。

静岡支部総会報告

支部長(55 修薬)樋口 和男

平成 26 年度理窓教育会静岡県支部総会は 3 名の新メンバーを迎え、平成 27 年 1 月 24

日(土)に三島市で開催されました。

母校報告では訪問した葛飾、久喜、野田、神楽坂のキャンパスの様子から、キャンパス毎の学生気質の違い、女子学生の増加、施設の充実等が報告されました。大学順位で再びトップテン入りした国家公務員試験、学部毎で就職先が大きく違う進学率などの進路状況も報告されました。教員採用では合格体験報告会や県・市教育委員会による説明会等、教職支援センターの計画的な指導が大きな役割を果たしていることが報告されました。これを受け本県の採用試験受験者の減少に対し、県教育委員会から母校学生への広報の必要性があるとの共通理解も得られました。

議事後の懇談会では毎年恒例の小学校の算数指導です。今年は『三角形の内角の和は 180° です。小学生に分かるような説明を考えてください。』です。是非、全国の皆様のお知恵も拝借したいと思います。投稿をお待ちしています。



富山支部総会報告

支部長 (52 理数) 辻井 満雄

理窓教育会富山支部総会は、理窓会富山県支部定期総会と兼ねて開催している。本年度は、平成 26 年 8 月 30 日(土)14 時から富山地铁ホテルにて来賓を含め、24 名の参加者のもとで開催された。「こうよう会」からも滝脇利範支部長が参加された。

総会は、本多宗高会長のあいさつに続き、中根滋理事長、増淵忠行理窓会副会長からご

挨拶があった。中根理事長から最も魅力的な大学となるためのビジョンを伺い、母校が世界へ飛躍していく姿が想像できた。その後、議事に入り、25 年度事業報告、会計報告が承認された。その後、教育会から支部の様子、土曜授業や少子化への取組の現状を伝え、小・中学校・高校の教員はそれぞれの校種で頑張っている状況を報告した。

議事・協議終了後、東京理科大学経営学部講師 野澤昌弘氏による「意思決定に役立つ統計的アプローチ」という演題で講演会が開催された。品質管理のためにはデータをしっかり取り、誤差をどのように小さくしていくかについて、具体的事例を踏まえて語られた。質問も多く出され、事例を使って詳しく説明され、全員が聴き入っていた。

その後、参加者全員で記念撮影後、懇親会へ進み、本多会長の開会の挨拶のあと、乾杯、懇談に入った。懇談の中で初参加の人のスピーチがあり、理科大を盛り上げていきたいと話がされた。新しい会員の中に 20 代や現役大学生も参加され、意見交換や懇談など大変盛り上がった会となった。今後も、会員相互の情報交換や会員数を増やす努力により理窓会富山支部を盛り上げていくことを確認して閉会した。

前回の総会で話し合われた『こうよう会』との連携が実現できた。11 月 8 日(土)14 時からカナルパークホテルで、理科大生が富山県内に U ターンできるよう本多宗高会長、会社関係として「四十物こんぶ」の四十物直之氏、「YKK」の池松耕二氏、「インテック」の川上留嗣氏、教育・公務員関係として「富山県立大学」の中島範行氏、「戸出中学校」の近藤智久氏が、連携の在り方、就活の現状、将来の展望、現在すべきことをこうよう会メンバーに伝え、懇親を深めることができた。

長野支部総会報告

支部長 (54 理窓数) 横川 秀明

理窓教育会長野支部総会は信州支部総会に合わせ 10 月 18 日(土)松本市で開催されました。理事の岡村総一郎氏並びに山下正事務

局長をお迎えし大学の現状報告に加え、新たな大学の科学技術創造の様子をうかがいました。葛飾キャンパスから見える大学の方向性や学生の姿に期待し、理窓会の伝統と歴史を改めて感じました。

諏訪東京理科大学渡邊康之准教授から「発電するビニールハウス！太陽光を発電と農業に！」と題してエネルギー環境教育の研究成果を講演していただきました。化石燃料に頼らない環境にやさしい自然エネルギーの必要性を学習することができました。

当日は同窓の県内高等学校長 3 名が参加し、諸先輩と情報交換し交流を深めました。県立高校には学校長として 4 名、教頭で 5 名の同窓生が奉職しております。教諭・講師では 100 名を超える先生方が、東京物理学校時代からの教育の伝統を受け継ぎ理数系教育はもちろん工業系高校にて活躍しています。

県内の高校では、諏訪東京理科大学と連携し魅力ある授業づくりで、理数離れや理数苦手意識を払しょくし、特色ある高校づくりに努めています。このことによって、高校時代に学んだ理数教育に興味関心を持ち、東京理科大学でさらに専門知識を得て、生涯の仕事として生徒達の夢の実現のために支えることを期待しています。

三重支部総会報告

支部長 (46 理窓数) 立松 忠博

本年 2 月 22 日 (日) ホテルグリーンパーク津において、三重支部総会を行った。

大学より吉本常務理事、石神理窓会会長および森野維持会長のご出席を賜り、大学並びに理窓会活動の状況についてご報告を頂きました。改めて建学の精神に立ち返り、理解を進めることができました。支部から役員紹介・活動報告・会計報告を行い、続いて、東京理科大学武村政春准教授から、最新のテーマのご講演「巨大ウイルスと生命～細胞進化の謎に迫る～」をしていただき、久しぶりに理系ならではの豊かな時間を持つことができました。その後、全員で校歌合唱・記念写真撮影

をしました。

午前の部を閉じ、ミニコンサートと自己紹介を中心とした懇親会に移り、若くしてご活躍の平成 23 年工学部卒業の中村リコーダー奏者と友人の石川ピアニストによるリコーダーミニコンサートを実施。大変なごやかな場をご提供いただきました。自己紹介を含め懇親会は和やかな雰囲気のもとに進められ予定時間をオーバーして閉会しました。

三重理窓会は、毎年、の会報発行・イベント・同窓訪問、総会を 3 年ごとに行っております。おかげさまで、総会を大変盛会に開催できましたことを、ご協力いただきました方々に、心よりお礼申し上げます。本県理窓会では教員の割合が減少傾向にあります。この課題解決に向けて、少しずつ前進して行きたいと思っております。

理窓会岡山支部教育会の活動について

支部長 (40 理数) 川上 洋一

今年こそは、次のような工夫をしようと思っております。

- 現役の教師は部活動の指導があるため、会を夜開く。
 - 高等学校部会と中学校部会に分けそれぞれに世話人を置く。
 - 世話人は当面理窓会岡山支部役員が当たる。
 - 会の開催は今後関係者が協議して決める。
- 以上

広島支部総会報告

支部長 (47 理数) 河野 正憲

I 教育会支部総会は、平成 26 年 9 月 7 日 (土) にセンチュリー 21 広島で理窓会支部総会に先立って会員 5 名が出席して開催しました。

議事内容は次のとおりです。

- 1 平成 25 年度の行事報告および決算報告
- 2 平成 26 年度の行事予定および予算案
- 3 役員改選
- 4 意見交換等

総会出席者の減少と近年の教員新規採用者

ゼロへの対策

II 恒例の支部会員による講演会は「日本製鋼所と広島縁の演題で(株)日本製鋼所田中義友副社長(S49 工・工業化学卒)により、会社の生い立ち、事業内容、そしてこれまでの自分を振り返って常にプラス思考で生きていくことの大切さ等の講話により研修しました。

III 理窓会支部総会は会員 18 名出席、本部から中根滋理事長、渡邊一郎理窓会副会長、森野義男維持会会長、山口東京理科大学金田和博準教授にお越しいただき、理事長から「日本の理科大から世界の理科大へ」というお話を聞き参加者一同、母校のこれからの発展を確信いたしました。

また、こうよう会から 3 名の参加を頂き、交流を深めました。

今後とも東京理科大学で学んだ私たち同窓生は、お互いに縁を大切に、教育会および理窓会支部会員の輪を広げていきたいと思っております。

佐賀支部活動報告

支部長 (44 理化) 森永 和雄

佐賀県は、理科教育に係る話題や施設に事欠かない。玄海原子力発電所の再稼働問題、諫早湾堤防の開門問題、海からの利用可能な再生エネルギーを研究する海洋エネルギーセンター、重粒子・陽子線による癌治療に係る九州シンクロトン光研究センター等である。県内の児童生徒は、これ等の施設等を訪問し研修に励んでいる。政治的には、佐賀空港に陸上自衛隊のオスプレイが配備される計画が俄かに持ち上がり、沖縄県の負担軽減の課題とも相まって佐賀県民もその判断に苦慮しているところである。

そんな状況の中、平成 26 年度の佐賀支部の主な活動状況は下記の通りである。

(1) 支部総会を 8 月に計画し会員に通知したが、参加可能者が支部役員ばかりとなり役員会のみを行った。(次年度は、児童生徒の夏休みに理科教室等を企画し、それに併せて総

会を実施する案などを話し合った。)

(2)「こうよう会」佐賀支部総会へは役員 2 名が参加し、本県出身の卒業生の進路把握と併せて佐賀支部への動向報告を依頼した。(本県で教職を希望する学生には採用試験へのアドバイス講座が実施可能なことを知らせた。)

(3)理科大が提供する各種情報をメールで受け取れるように、グループウェアに登録することを会員に勧め、メールアドレスと Office365 にサインインするパスワードの取得を促した。

(4)佐賀支部への未登録会員を訪ね、役員会への出席を依頼し、理窓会本部への会費納入も促した。

(5)本県で教職にある会員が、県内の理数科を持つ高校を訪問し、理科大が実施している「坊ちゃん科学賞」への応募を勧めた。

坊っちゃん科学賞について (48 理物) 長谷川 純一

「理学の普及」を理念とする東京理科大学『坊っちゃん科学賞』も第 6 回を迎えました。昨年続き、葛飾キャンパスで「研究論文コンテスト」が開催され、多くの参観者を迎えて盛大に幕を閉じました。

全国 46 校から、110 件の応募があり、分野別審査、総合審査と 2 回の審査会を経ての発表会です。発表校に選定された 5 校が研究成果を発表し、論文を応募した他の高校生が発表を聞き、質疑応答を重ねていきます。そこには、研究を継続してきた者だからこそ理解できる追究心に満ち、成果を上げるまでの苦心に敬意を払い合う研究者の姿がありました。

審査の結果、明治大学付属明治高等学校 市田優君による「オイラー線に関する新事実～解析幾何学のアプローチから～」が最優秀賞に輝き、発表校である青森県立名久井農業高等学校、岐阜県立大垣養老高等学校、岐阜県立加茂高等学校、東京工業大学附属科学技術高等学校に優秀賞が授与されました。また、これまでの取り組みの成果として、明治大学付属明治高等学校と岩手県立水沢高等学校に学校賞が授与されま

した。

回を重ねるたびに、高校生の研究内容が専門性に優れ、精密なデータに基づく検証がなされるなど、その研究姿勢が高まっていることに気が付きます。まさに、東京理科大学の理念「理学の普及」が体現された一日でもありました。

新規採用教員激励会について (45 理物) 松原 秀成

平成 26 年度理窓教育会主催の新規教員採用試験合格者激励会を平成 27 年 3 月 7 日(土)午後 3 時 30 分から PORTA 神楽坂 7 階の第 2 会議室で開催しました。

東京理科大学中根滋理事長・藤嶋昭学長・石神一郎理窓会会長・矢島尊こうよう会会長をはじめとしてご来賓 7 名、教育会会員の現職・OB 教員等、出席者 38 名、また、新規採用教員予定者 70 名、総数 108 名が出席し盛大に行われました。

司会は並木正先生が務めた。富岡康夫理窓教育会会長の挨拶に続き、ご来賓の中根滋理事長のご挨拶をいただいた。中根理事長はこの 2 月 15 日に第 8 期文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議委員に就任された。その観点から教科指導力・生徒指導力を併せ持った魅力ある教師を目指してくださいとの激励の言葉をいただいた。続いて石神一郎理窓会会長のお祝いの言葉をいただいた。次に、合格者を代表して、東京都公立中学校に合格した中村真理さんが、感謝の意と教職に向けての決意を力強く宣誓した。

引き続いて、武内愛樹先生の司会で懇親会に入った。来賓としてご出席の藤嶋昭学長・教職支援センター長の眞田克典教授・こうよう会矢島尊会長から励ましの言葉をいただいた。そして、教育会奥原千里参与の乾杯のご発声で懇親会へと進んだ。元気な新規採用教員の諸君から自己紹介と教師への熱い抱負が述べられ、和やかな雰囲気の下、同窓としての先輩・後輩の絆を深め散会した。

坊っちゃん賞を受賞して (42 理化) 小野 具彦

教育会の皆様に推薦して頂き、初め辞退しましたが、お世話頂いて来た教育会の皆にという意味でお受けしました。深く感謝いたします。

中学校理科教諭として 5 地域 5 校で 18 年、物化生地の全てを担当、幅広い力量が要求されました。教材研究を徹底し、力不足を研修・研究会参加と先輩・同僚に学び、発見や気付きがある良く分かる授業を目指しました。都の研究者や開発委員の経験は、後の理科担当指導主事につながりました。都や全国の中学校理科教育研究会会長等では、多くの理科教員と交流し、文部科学省とも関り、理科教育を幅広く捉え、その充実と発展に力を合わせました。

指導主事 6 年の後、3 地区 3 校の中学校長を 12 年務め、困難期の 1 校目で望ましい学校創りに奮闘し、次に教職員と一体になっての学校創造、3 校目では高い理想を掲げ先進的な取り組みを進めました。

最終年に全国中学校長会の会長となりました。様々な会や団体の委員・理事・評議員の充て職も多く、極めて多忙でした。全国 8 地域の研究大会にも参加、1 万人の校長先生との連帯を強く感じた日々でした。

都の室長派遣が無い市の指導主事を 6 年、市の学校教育全般の企画・運営に広く関り、やりがいのある充実した日々でした。地元市の教育委員 8 年(内委員長 3 年)では、経験を生かし、幅広い視野から関与が出来たと思っています。

グローバルサイエンスキャンパスの 実施状況について

(49 理物) 春山 修身

「グローバルサイエンスキャンパス教育事業」プログラムを昨年の 9 月から開始してからほぼ半年が経過して、早くも基礎コース 1 期生の修了式を迎えようとしていま

す。昨年 9 月に行った基礎コース 1 期生(募集 70 名。入門編のみ)の公募には 142 名の優秀な生徒が応募し、慎重に審議した結果 119 名が合格しました。

10 月 12 日から今年の 2 月 22 日まで、毎月 2 回ずつ日曜日に 3~4 コマ(1 コマ 70 分)の講義および実験・実習を合計 35 コマ行いました。12 月 25~27 日には野田セミナーハウスで合宿講義を行って受講生の自主性とコミュニケーション力の向上を図りました。講義の大部分は高校の学習レベルを超えているので多くの脱落者が出ることを心配しましたが、講義最終日の出席率もはじめの頃と大差は有りませんでした。

3 月 1 日には口頭発表・ポスター発表会(口頭 3 名、ポスター 7 名)を JST、教育委員会からのゲスト審査員を迎えて行い、また、3 月 15 日に修了式および発展コース(募集 20 名)の選考を行います。

発展コースの受講生は研究室に配属されて来年の 2 月まで研究活動を行います。その間に、9 月にはキール大学(ドイツ)で地元の高校生と短期研修を行います。

5 月下旬には基礎コース 2 期生が選抜されますので、今年は 1 期の発展コース生と 2 期の基礎コース生とが共に学ぶことになり、新たな交換の場も生まれるのではないかと期待しています。

理窓教育会の皆様には、生徒募集にあたってご理解とご協力をいただくとともに、参加生徒への日々の励ましとご指導をいただいております。心から感謝申し上げます。

2 期生の募集をはじめ、今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

同窓の活躍

「知の日比谷」でリーダー育成を

東京都立日比谷高等学校長

(62 理専・物) 武内 彰

本校は明治 11 年に創立し、今年で 137 年目を迎える都立進学校である。私はその学校

の在り様を端的に示すキャッチフレーズを掲げることにしており、本校では「知の日比谷」としている。これは、本校の伝統・校風である文武両道を貫いていく中で全人教育をしていく学校、という意味合いをもつ。まずは、大学で学問をしていく上での前提となる基礎的・基本的な知識をしっかりと身に付けることである。それと共に体育大会・合唱祭・星陵祭（全クラス演劇に取り組む文化祭）といった三大行事及び部活動に真摯に取り組む中で、豊かな人間性を培っていくことである。

かつては学年の半数以上が東京大学へ進学していく学校であった。現在では、私立中高一貫教育校にとってかわられた状況が続く、東京大学へは毎年 30 名～40 名が進学をしている。そうした状況をより前進させるために私が配置されたと理解している。しかし、大切なことは、進学実績を上げることを目的化するのではなく、もう少し先を見据えて、これまでもそうであったが、本校が果たしてきた役割、すなわち人類に貢献するリーダーを育てる学校として発展していくことが大切である。そこを見失うことなく、私は生徒たちの希望をかなえるために学校経営を進めている。

1 教科マネジメントの確立

その学校の教科指導の質を測る目安として、定期考査問題の共通化がある。各教員は自分の思いや経験で授業を進めがちである。同じ科目であるにもかかわらず、個々の教員がバラバラに授業をしていたのでは生徒の学力向上は望めない。本校では、現在多くの教科・科目で定期考査問題の共通化が成し遂げられている。100%に到達していないのは、地理歴史・公民科、地学、保健である。担当者同士が教科チームの一員となって、年間指導計画を踏まえ、授業内容・授業進度・到達目標について十分なコミュニケーションをとり、授業を展開し、学力到達度測定のためのツールとして考査を実施する。コミュニケーションをとるということは、教材観や指導理念なども含めてお互いにさらけ出しながら、議論をし、共通理解を深めていくことである。

そうして、異動などによって教員が交代しても、本校生徒にふさわしい教科指導の在り方が継承されていく状態になったとき、「教科マネジメントが確立した」状態になると考えているし、そこを目指している。

2 SSHの取組

本校が文部科学省から SSH の指定を受けて、9 年目を迎える。SSH の 1 期生は大学院へ進学し、研究者の道を歩み始めている。本校では、1 年生全員を対象にして自主探究活動を行っている。1 年生ということもあって、生物分野や地学分野の探究テーマを選択する生徒が多いが、中には大学の物理学のテキストを片手に探究活動をする生徒もいる。8・9 時限目には理科の各実験室で試行錯誤する生徒たちの姿を見ることが出来る。生徒たちを見てみると、自らの知的好奇心に基づいて探究していくことの大切さをあらためて感じる。科学者は、誰もが真理を追究していくことにわくわくしてきたはずである。

2 学年になると、理科系の部活動を中心にして自主探究活動を進めている。こうした生徒たちが様々な科学コンテストに出場し、毎年数名が受賞している。科学の祭典東京大会へも毎年チームを組んで出場している。その結団式が校長室で開かれ、私は生徒たちに激励の言葉を伝えている。また、東京都の SSH 指定校が毎年 12 月に一堂に会し、合同発表会を行っている。ここでも生徒たちはいい刺激を受けている。

さらに、夏季休業日には 2 年生 12 名を選抜して、海外派遣研修を実施している。MIT やハーバード大学を訪問し、世界最先端の研究に触れるとともに、大学生との対話を通して、学ぶことの意義を体感しているのである。こうした取組もすべて本校卒業生の人脈を通して開拓してきた。こうした点においても、都立伝統校のもつ付加価値を感じずにはられない。研修に参加した生徒たちは異口同音に「価値観や人生観が変わった」と言う。その後の学校生活においてもこれまで以上に学びや活動に積極的になっている様子が見て取れる。現在は自然科学分野での取組であるが、

人文科学・社会科学分野でも同様の取組ができないか検討をしている。

理科大で熱心に御指導くださった先生方がいらしたからこそ今の自分がある。また、数多くの同窓生が全国各地で教員として活躍をしていることは、現場にいて大変心強い。これからの母校のますますの発展と同窓生のご活躍をお祈り申し上げます。

大学との連携

理事 (46理応物) 榎本 成己

教員採用試験対策は大学が重視し、学務部教職支援センターの事業として講座を主催するようになりました。理窓教育会からは講師を推薦し、教職課程指導室に所属している理窓教育会会員が運営に携わっています。

1.教員採用試験対策講座 3年生講義コース

平成 26 年 10 月 5 日から 12 月 7 日の日曜日にかけて 8 回実施し、理窓教育会の先生方 13 名が約 80 名の学生を指導しました。今回は、内容を整理して教育課題と教職教養に分類して講座を組み、系統性を持たせて実施しました。また、教職教養と専門教養の模擬試験を行い、意欲向上を図りました。

2.私学教員採用試験対策講座

平成 27 年 1 月 14 日、私立学校教員を目指す学生を対象に実施し、理窓教育会の先生方に指導していただきました。また、私立学校に採用されて数年を経た若手にも講師になってもらい、新鮮な情報を学生たちに知らせることができました。

3.教員採用試験対策講座合宿コース

平成 27 年 3 月 2 日から 2 泊 3 日の日程で野田セミナーハウスにて行われ、男子学生 65 名、女子学生 14 名が参加しました。

内容は、午前中が教育課題に対する講義と論作文、午後は集団討論・場面指導、個人面接、模擬授業、さらに夜は合格に向けての個人および班活動を組みました。

学生たちは、とてもハードなスケジュールの中、充実した 3 日間を過ごし、合格に向けてのモチベーションを高めていました。

4.プレ教員講座

平成 27 年 3 月 7 日、この 4 月から教壇に立つ予定の学生たちに初任者として心構えを持たせるための講座を実施しました。冒頭に、藤嶋学長から激励のお話をいただき、現職校長の前島正明先生、中洋一先生にご講演いただきました。



平成 26 年度教員採用試験対策講座 合宿参加者

h27.3.2

事務局だより

1. 理窓教育会事務局について

理窓教育会事務局は大学会館 PORTA 神楽坂 7 階の理窓会事務室内に置かれています。

ただし、理窓教育会事務局専属の事務員がいるわけではありませんので、ご連絡は郵送でお願いいたします。

〒162-0825

東京都新宿区神楽坂 2 - 6 - 1

PORTA 神楽坂 7 階 理窓会事務室内

なお、お急ぎの場合には、2 の支部長等の連絡窓口にご連絡ください。

2. 支部長等の連絡窓口

教職課程指導室 小久保正己 (編集担当)

TEL 03-3260-4271 内線 2780

FAX 03-3260-1776

メール kokubo@rs.kagu.tus.ac.jp

3. 会費の納入について

理窓教育会は会員の皆様の会費 (年額千円) で運営されています。会費の納入は郵便振替をご利用ください。

口座番号 00160-9-715349

加入者名 [東京理科大学理窓教育会]

平成26年度実施 教員採用試験合格者数									平成27年3月11日 現在				
校種 教科	小学校	公立						私立				公私 合計	
		中学校・高等学校			特別支援			中学校・高等学校			合計		
		数学	理科	不明	数学	理科	不明	合計	数学	理科		不明	合計
北海道		1						1					1
宮城		4						4					4
福島		1						1		1		1	2
茨城		3	3					6	4	1		5	11
栃木		1						1					1
群馬									1			1	1
埼玉		9	4	10	1			24	4	1	1	6	30
さいたま市			1					1					1
千葉		21	3					24	1	5		6	30
東京都	4	70	29		5			108	11	4		15	123
神奈川		10	1			1		12	3	3		6	18
横浜市		2	1					3					3
川崎市		2						2					2
長野			1					1					1
新潟		1						1					1
富山		1						1					1
岐阜		1						1					1
静岡			2					2		1		1	3
愛知		1						1					1
名古屋市		1						1					1
京都									1			1	1
和歌山		1						1					1
広島									1			1	1
香川						1		1					1
福岡									2			2	2
佐賀									1			1	1
合計	4	130	45	10	6	2		197	29	16	1	46	243

校種 教科	小学校	公立						私立				公私 合計	
		中学校・高等学校			特支			中学校・高等学校			合計		
		数学	理科	不明	数学	理科	不明	合計	数学	理科		不明	合計
平成26年度	4	130	45	10	6	2		197	29	16	1	46	243
平成25年度	4	92	58	2	3	3		158	38	18		56	214
平成24年度	1	89	60		6			156	30	12		43	199
平成23年度	2	112	26		1			141		6		69	210
平成22年度		89	18	1	1			109	39	8		48	157
平成21年度		48	21	1	3			73	23	4		28	101
平成20年度	4	49	15		3			71	14	2		18	89
平成19年度		28	6					34	24	4		35	69
平成18年度		34	7	1				42	16	2		20	62

昨年度までのデータは最終値、今年度のものは現時点の値である。また、合格者は述べ人数である。

